

1. 分科会活動の趣旨

(1) 目的

本分科会では、プロセス改善活動(SPI)を推進する各社メンバが、CMMIを活用する上での悩み／課題／対応方法を共有し、組織にとってより良いプロセスの実装方法を追求している。

(2) 背景(悩み／課題と、それらへの対応)

・各社各様にCMMIの解釈が進み、偏りや固定的な発想が出ている

➡『**暗黙知の理解**』：プラクティスの解釈を議論し、あるべき姿を整理

・プロセス実装事例を知る場が少なく、実装が正しいか自信を持ってない

➡『**形式知化**』：プラクティス毎の実装方法を議論し、ノウハウを整理

・分科会メンバだけでなく、広く成果を共有しSPI発展に寄与したい

➡『**情報発信**』：ハンドブックに纏め、JASPIC内会員企業で共有
2. 活動の概要

(1) 参加メンバ

・参加資格：JASPIC研究員

・メンバ構成：現場経験やプロセス改善の経験があるメンバ

現メンバ数12名

(2) 毎年の活動

・テーマとなるプロセス領域を選定

・月1回、半日程度の会合

➢実装面からのプラクティス解釈

➢あるべき姿と現実の意見交換

・合宿による集中討議(1～2回／年)

➢ケーススタディ、成果のまとめ

(3) 成果

現場のリーダーがいつでも参照できるよう冊子化し、JASPIC内に公開

➡『**SPI現場ノウハウ活用ハンドブック (184ページ)**』
3. 成果物の紹介

『SPI現場ノウハウ活用ハンドブック』の特徴と狙い

・現場のリーダーが理解しやすいように、組織・プロジェクトのPDCAと関連付けて、プラクティスの解釈やプロセスの実装例を整理

➡プロマネ／プロジェクトリーダーにCMMIベースの組織プロセス資産を使いこなしてもらう

・PDCAサイクルを効率的にまわすため、「プロセスエリア間のPDCA」「固有プラクティスのPDCA」を明確化

➡プロセスエリア間の連携を知る事で、統合的なマネジメントを意識してもらう

・各プロセスの実装を容易にするため、固有プラクティス毎に「実践的解釈」／「実装例」を整理

➡プロセス構築時やプロセス実行時のヒントにしよう

プロセスエリア間のPDCA

組織活動の管理サイクル

Check & Action

Plan

Do

組織活動

プロセス管理

プロジェクト活動

開発

トップマネジメント

【OID】組織改革と展開

【OPP】組織プロセス実績

【OPF】組織プロセス重視

【OPD】組織プロセス定義

【OT】組織トレーニング

【PPQA】プロセスと成果物の品質保証

【IPM】統合プロジェクト管理

【PP】プロジェクト計画策定

【PMC】プロジェクトの監視と制御

【QPM】定量的プロジェクト管理

【CAR】原因分析と解決

【MA】測定と分析

【RSKM】リスク管理

【DAR】決定分析と解決

【REQM】要件管理

【CM】構成管理

【SAM】供給者合意管理

【RD】要件開発

【TS】技術解

【PI】成果物統合

【VER】検証

【VAL】妥当性確認

事業目標

プロセス実績モデル

組織の目標

プロセス実装の継続

Plan

Do

Check & Action

プロジェクトの管理サイクル

固有プラクティスのPDCA

プロジェクトの活動

Plan

Do

Check Action

要件の理解(SP1.1)

関係者のコミット(SP1.2)

変更の管理(SP1.3)

トレーサビリティの維持(SP1.4)

不整合の特定(SP1.5)

RD

TS

PI

VER

VAL

PMC

「実装的解釈」／「実装例」

実装例

表 REQM-2 サブプラクティス SP1.4 の実装例

【参考】

実装時の留意点

REQM; SP1.4

要件と作業成果物との間の追跡可能性を維持する。

実践的解釈

【サブプラクティスの概観】

図 REQM-4 サブプラクティス SP1.4 の概観

【解釈】
- ◎ハンドブック対応済プロセスエリア (CMMI V1.2)

レベル2:要件管理、プロジェクト計画策定、プロジェクトの監視と制御、測定と分析、構成管理、プロセスと成果物の品質保証

レベル3:要件定義、リスク管理、統合プロジェクト管理

レベル4:定量的プロジェクト管理、組織プロセス実績

すべての共通ゴール含む

あなたと一緒にSPIを楽しみませんか！

是非JASPIC(<http://www.jaspic.org/>)へご参加ください。

※CMMI® は米国に於けるCarnegie Mellon Universityの登録商標です